

# 知的障害特別支援学校 中学部 社会科でのフィールドワークの実践

## 目的

知的障害特別支援学校における社会科フィールドワークを通して、生徒の学習過程をどのように見取り、形成的評価として機能させることができるのかを明らかにすることである。特別支援教育では、観察・声かけ・支援調整が日常的に行われているが、それらが「指導と評価の一体化」としてどのように働いているかは十分に整理されていない。本研究では、社会科フィールドワークを対象に、生徒の行動・発言・理解の変容を多角的に捉え、形成的評価の具体的な姿を検討した。

## 研究方法

対象：附属特別支援学校中学部 1～3年生 15名（異学年混合の3班編成）  
実施内容：喜連環濠地域を歩くフィールドワーク  
（地蔵探し、ビンゴシート、A2地図、ミッションシート）  
データ：行動観察、逐語記録、写真・動画、  
振り返りアンケート、TT振り返り



図1 使用した地図



図2 ビンゴシート

## 結果（振り返りアンケート）

表1 フィールドワークの難易度と歴史理解

難易度	歴史があること よくわかった	歴史があることが すこしわかった	歴史があることが よくわからない
かんたんだった	6	0	1
ちょうどよかった	2	1	1
むずかしかった	1	3	0

表2 次への意欲×歴史理解

難易度	(また歩きたい) はい	(また歩きたい) いいえ	よくわからない
よくわかった	9	0	1
すこしわかった	2	0	1
よくわからない	1	1	0

表3 班×難易度

班	かんたん	ちょうどよかった	むずかしかった
1班	1	2	3
2班	3	1	1
3班	3	0	1

表4 喜連の歴史理解×住んでいる場所の歴史

喜連の歴史理解	住んでいる場所に 歴史がある	ない
よくわかった	9	2
少しわかった	1	2
よくわからない	0	1

表5 意欲×フィールドワークの難易度

難易度	(また歩きたい) はい	(また歩きたい) いいえ	よくわからない
よくわかった	7	0	0
すこしわかった	1	1	1
よくわからない	5	0	0

フィールドワークで役割（やくわり）はありましたか？  
15件の回答

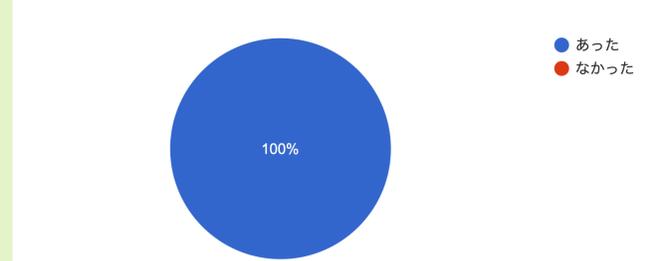


図1 役割の有無について

その役割（やくわり）をがんばれましたか？  
15件の回答

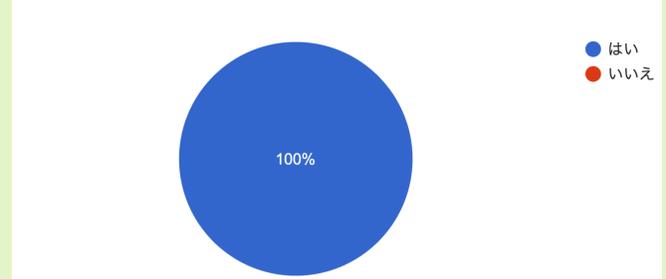


図2 役割へのやりがいについて

## 考察

班に関わらず参加者全員が役割を意識してやりがいを感じていた。フィールドワークは、生徒の行動・発言・試行錯誤をその場で見取り、指導に即時反映できる学習形態であり、形成的評価が自然に働く場であることが明らかになった。発達段階に応じた3つの班に同一教材を用いながら支援量を調整し、逐語記録からは、児童生徒の空間認知が「迷い→照合→修正→理解」へと深まる様子が確認され、役割遂行を通して主体的な学びが促進されていた。アンケートでは、活動の難易度と歴史理解、理解と次の意欲に関連が見られ、「よくわかった」児童ほど「また歩きたい」と答えていた。

また、役割分担による協働的な学びは主体的な学習への態度の育成に寄与し、特別支援教育における構造化の効果が確認された。難易度の受け止め方には個人差があるものの、達成感や成功体験が意欲の向上につながり、適切な課題設定と支援調整の重要性が示された。さらに、フィールドワークは社会科の三領域（地理・歴史・公民を自然に横断し、学習指導要領が求める社会的事象への主体的な関わりを実現するものであり、「指導と評価の一体化」を具体的に示す実践であった。